

平成 28 年度学位記授与式 学長式辞（平成 29 年 3 月 18 日）

学士課程 4 年次生の皆さん、修士課程 2 年次生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。ようやく春の息吹も感じられるようになり、南の地域からは桜の便りも聞こえてきました。今年も季節がめぐり、卒業生の皆さんが巣立つ日がやってきました。

本日、ここに駿河台大学第 27 回学位記授与式に当たり、学士課程 5 学部を卒業される 741 名、修士課程 2 研究科を修了される 11 名の皆さんに、大学役員、教職員一同、心よりお祝いを申し上げます。

ご父母の皆様におかれましては、ご子息、ご息女のご卒業を心よりお慶び申し上げます。また日頃より、本学に対しさまざまなご支援を賜り、感謝申し上げます。本日は、ご多忙の中、飯能市副市長様をはじめ、数多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りました。本学の教育・研究・地域活動等に対する深いご理解とご協力に、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、本日の学位記授与式に当たり、卒業生の皆さんにひとことお祝いの言葉を贈りたいと思います。

皆さんは、今日から社会人として新たな道を歩みだすこととなりますが、皆さんはいま、大きな期待とともに、若干の不安も抱いているのではないのでしょうか？ 確かに現在の日本は、高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少や非正規雇用の増加等による格差の拡大が大きな社会問題になっています。国際的状況では、イギリスの EU 離脱問題やアメリカのトランプ政権誕生による保護主義政策の強化、反グローバリズムへの動きが顕著になり、国際秩序が揺さぶられようとしています。ロボットや人工知能の技術も急速に進歩し、これまでの社会的・経済的・政治的枠組みでは対応が困難な状況になることが予想され、将来の見通しが難しくなっています。

このような状況の中、皆さんには、これからの変化の激しい社会をたくましく生き抜き、社会の中核的役割を担うことが求められています。そのためには、大学で身に付けた専門的な知識や技能だけでは、ダイナミックに変動する社会に十分対応することは困難です。つねに主体的に学び、新しい知識や技術を身に付けるとともに、どのような職業についても、変化に対応できる、社会人としての基礎的な力を高めることが重要になります。皆さんは、本学での学びを通じて獲得した「駿大社会人基礎力」にさらに磨きをかけ、これからの社会の担い手となってください。皆さんにはこの先、明るい未来があります。変化をおそれて立ち止まるのではなく、変化を愉しみ、可能性に期待してまず踏み出すことが大事です。

ここで、皆さんに二つお願いがあります。一つは、本日、受け取られた学位記をしっかりとお父様、お母様にご覧いただき、これまで支えてくださったご父母に感謝の言葉を述べてください。皆さんがこの世に生を受けてから今日まで、皆さんの成長をどれほど楽しみにされていたことでしょうか。今日はその記念すべき日です。しっかりと伝えてください。

もう一つは、後輩の皆さんへの応援です。本学はこれまで約 25,000 人の卒業生を送り出してきました。そして、卒業生の皆さんには、同窓会を通して在学生の成長を応援していただいています。今度は、皆さんが後輩を応援する番です。本学は、近年、スポーツや地域貢献の分野でも大いに活躍しています。皆さんにおかれましては、勉学の面とともに、スポーツ活動の発展等、駿河台大学の今後の取り組みを支えていただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、卒業生の皆さんが自らの力を十分に発揮して社会でご活躍され、実り豊かな人生を送られるようお祈りして、ご卒業にあたり贈る言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

平成 29 年 3 月 18 日
駿河台大学
学長 吉田 恒雄